

# はじめての 万葉集

日本に現存する  
最古の和歌集「万葉集」を  
わかりやすくご紹介いたします

vol.  
134

## 石上の杉

本歌は、巻三の挽歌（人の死を悼む詩歌）に収載されており、四二〇番歌の題詞に「石田王の卒りし時に、丹生王の作れる歌一首」とあるように、石田王に対する丹生王の挽歌（四二〇～四二二番歌）のうちの一首です。よって、本歌の「君」は石田王を指します。

石田王は忍壁皇子（刑部親王）の子で、山前王の兄弟と考えられています。四二五番歌の左注では、山前王が石田王に代わって、紀皇女への挽歌を詠んだことが見えます。石田王は悲しみのあまり、歌が詠めなかったのでしょうか。このことから、石田王と紀皇女が婚姻関係であった可能性があります。不詳です。

丹生王は系譜未詳ですが、丹生女王

いそのかみ

ふる

布留の山なる

すぎむら

杉群の

思ひ過ぐべき

君にあらなくに

丹生王（巻三・四二二番歌）

と同一人物との説があります。その場合は、大伴旅人が大宰帥として赴任した際に歌を贈っていることが分かります（巻四・五五三、五五四番歌）。石田王が亡くなった段階では、その妻であったと考えられます。

「石上」は石上神宮を中心とした一帯の総称です。「布留の山」はその中にあり、石上神宮の東方に位置しました。現在も天理市に石上町や布留町の地名が残っています。

「杉群」とあるように、石上には杉林があります。その中でも、神杉と称される神聖な杉があり、『万葉集』の中でも詠まれています（巻十・一九二七、巻十一・二四一七番歌）。現在でも、樹齢三百年を超える杉があります。杉の神性について、「直ぐ木」から名付けられたとの説もあるように直立した巨大な常緑高木の姿、屋久島には樹齢数千年に及

### 訳

石上の布留の山の杉群の

ように忘れすぎてしまうわが君ではないのに。

ぶものがあほほどの長命、また素材として建築など幅広い用途があることなどに、古代人は霊威を感じたのではないのでしょうか。

（本文 万葉文化館 中本和）



## 万葉文化館 イベント情報

### ◆ 館蔵品展

「柿本人麻呂―万葉歌人から歌聖へ―」

開催中 6月29日（日）

柿本人麻呂が読んだ歌をモチーフに描かれた「万葉日本画」などの絵画を中心に、「万葉集」の写本や注釈書などを展示。人麻呂が後世に与えた影響をたどります。

※国内の小・中学生、高校生、18歳未満の人は無料。

※国内の65歳以上の人は平日無料、土曜・日曜は一般料金になります。その他割引など、詳しくは当館HPをご覧ください。

### ● 学芸員による

ギャラリートーク

要観覧券

6月18日（水）15時40分

「講師」当館学芸員

「会場」日本画展示室

### ◆ 万葉集をよむ

無料

6月18日（水）14時～15時30分

「秋の雑歌（3）」

（巻8・1530～1543番歌）

「講師」榎戸涉吾（当館研究員）

「定員」150人（先着・申込不要）

※オンライン視聴（定員なし）は要申込

### ◆ にぎわいフェスタ万葉夏

7月中旬～8月下旬

詳しくは当館HPをご覧ください。



平松礼二《路・湖愁》



上田勝也《月の船》



奈良県立 万葉文化館

☎0744-54-1850

🌐www.manyo.jp